

博物館展示論

(解答はすべて解答用紙に記入し、この問題用紙に記入しないこと)

1. 次の各文章の()の中に、適当な用語を記入して完成させなさい(各5点)
 - (1) 日本国内では、展示が産業化していく契機となった一大プロジェクトがあるが、それは1970年に大阪府吹田市にて開催された(①)である。
 - (2) 展示が展示として成立する条件として、「時間」と「空間」それに「資料」なり「情報」がある。加えてマス・メディアとしての特徴として(②)と(③)という関係性が成り立っている必要がある。
 - (3) 博物館の展示づくりのプロセスは、一般的に(④)、(⑤)、基本設計、実施設計、制作・施工の順で行われる。
 - (4) 近年、新しい展示手法として、既存の建物を利用しその壁面全体に映像を投影し、あたかも実際の建物が動いて見えたり、あるいはまったく違う建物になってしまうかのような演出を可能とする技術がある。この映像展示手法を(⑥)という。2012年9月に行われた東京駅・丸の内駅舎の復原工事完成イベントでも使用された。
2. 以下より**3つ選び**、それぞれの解説を展示計画若しくは管理運営の観点から100字以内で簡潔に述べなさい。(各10点)

(4つ以上を選択して回答した場合は無効とする。)

 - (1) 展示グラフィック
 - (2) 演示具
 - (3) ハンズ・オン展示
 - (4) レプリカ
 - (5) サイン計画
 - (6) 展示ケース
 - (7) ジオラマ
3. 展示を企画するおりに来場者の「動線計画」を立てるが、その基本的な動線の種類と留意点を200字以内で述べなさい。(20点)
4. 近年、注目を集めている「行動展示」という言葉について、その言葉の意味とこの展示方法が確立された背景等を200字以内で述べなさい。(20点)